

高崎ユネスコ協会長賞

平和に繋がる今自分にできること

高崎市立箕郷中学校 二年 高野 美羽

「ヘアドネーション」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。

ヘアドネーションとは、伸ばした髪の毛を医療用ウィッグの素材として寄付するボランティア活動のひとつです。小児がんや白血病などの病気、不慮の事故等で髪の毛を失った子どもたちに対し、医療用ウィッグを無償で提供する活動です。

私がこの言葉を知ったきっかけは、腰まで伸びた長い髪を切るか切らないか迷っていた小学生のときです。私は五歳から小学生の時に、クラシックバレエを習っていました。バレエをするときは、髪をコンパクトにまとめるためにある程度の長さが必要です。私自身もロングヘアが好きで、ずっと腰より長い髪をしていました。しかし、あまりに長い髪はお手入れが大変です。それでも切りたくない私は、なかなか切るという決心がつかなかったのです。

そこで母がいろいろ考え調べてくれて、ヘアドネーションを知りました。切った髪の毛が誰かの役に立つのなら、喜んで切りたいと思い参

加しました。そして今までに、四十センチ近い髪の毛を三回寄付することができました。寄付をすると認定証がいただけ、私の髪の毛で悩みを抱えた子の手助けができた実感できても嬉しかったです。

このように、ヘアドネーションはボランティアのひとつです。その他にも、高齢者や障がい者のサポート、子育てや教育のサポート、ゴミ拾い等の地域貢献活動、被災地や被災者への支援活動など、一言でボランティアと言っても、その方法は多岐にわたります。手助けを必要とする人々は多くいるのです。では、今私たちには何ができるのでしょうか。

私自身は直接大きな災害の被害を受けた経験はありません。しかしメディアで、地震や豪雨、山林火災等による自然災害を目にすることがあります。そんな大きな災害が発生するとショッピンングモールやコンビニに募金箱が設置され、多くの人の善意による支援が集まることを知っています。また直接現地に行つてボランティア活動に参加する方が多くいることもニュースで見聞します。

しかし、中学生の私が募金する意思があっても、そのお金は私が稼いだお金ではないし、遠方の災害地に赴き、がれき撤去などの重労働を

担うことも現実的には難しいです。

そんな中、ヘアドネーションだったら、困っている子どもたちのために、私たち子どもでも助け合いの輪に協力することができのです。

調べてみると、病気や事故で髪の毛を失ってしまう子どもが多くいることを知りました。医療用ウィッグは、髪の毛がないことで「人に会うのが恥ずかしい」「学校へ行きたくない」といった悩みを抱える子どもたちの社会復帰を手助けする重要なアイテムなのです。

人は誰かを支え、誰かに支えられ生きているのです。助けてもらったら自分も誰かを助けたいと思うでしょう。たとえ小さな行動でも、多くの人が誰かを思いやる気持ちを持っていればより良い社会を築くことができると思っています。

今回私はいろいろ調べた結果、ヘアドネーションという方法を取りましたが、私たちにできるボランティアの方法は他にもたくさんあるのです。どんなことに困っている人がいるのか、どんな手助けが必要なのか、今自分に何ができるのか、そんな小さな思いやりもたくさん集まれば大きな愛情となるでしょう。それが世界の平和に繋がると信じています。